インストールガイド

Sun™ ONE Directory Proxy Server

Version 5.2

817-3794-10
2003 年 6 月

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc. Some preexisting portions Copyright © 2001 Netscape Communications Corporation. Copyright © 1996-1998 Critical Angle Inc. Copyright © 1998-2001 Innosoft International, Inc. All rights reserved.

Sun 、Sun Microsystems 、Sun のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Netscape および Netscape の N のロゴマークは、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。その他の Netscape のロゴマーク、製品名、およびサービス名もまた、米国の Netscape Communications Corporation の商標であり、その他の国においても登録されている可能性があります。

Sun ONE Directory Proxy Server 製品の一部はミシガン大学、カリフォルニア大学バークレイ校、およびハーバード大学にそれぞれ著作権があるソフトウェアに由来しています。特に事前の書面による許可なしにここで言及されている製品もしくは文書に由来する製品を推薦または宣伝するためにこれらの大学の名称を使用することはできません。

Sun ONE Directory Proxy Server の一部の著作権は The Internet Society (1997) にあります。

Federal Acquisitions: Commercial Software-Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions

本書で説明されている製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。Sun | Netscape Alliance および Sun のライセンサーの書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目 次

本書について **7**

要件 7
表記上の規則 8
関連情報 8
ユーザー補助機能 10
コンソールの補助機能 10
分かりやすい名前および説明 10
カスタマイズ可能なフォント 10
ダイナミック GUI のレイアウト 10
キーボードで操作できるコンポーネント 10
テキスト以外の要素と同等のテキスト要素 10
マニュアルの補助機能 11
テキスト以外の要素と同等のテキスト要素 11
補助技術で解釈可能なテーブル 11

第 1 章 インストールの準備 **13**
インストールコンポーネント 14
設定の決定 14
一意のポート番号の選択 14
新しいサーバールートの選択 15
認証エンティティの定義 16
設定ディレクトリの位置の決定 16
インストールプロセスの概要 17
インストールプロセスの選択 17
ソフトウェアの解凍 18
インストール特権 18

第 2 章 コンピュータシステムの要件 19
サポートされているプラットフォーム 19
ハードウェアの要件 20
オペレーティングシステムの要件 20
Solaris 環境 20
システムモジュールの要件 20
システムのチューニング 21
ファイル記述子 21
TCP のチューニング 21
Windows 環境 23
特権 23
TEMP 環境 23
ディスプレイドライバ 23
パッチの入手 23

第 3 章 インストール 25
Solaris 上へのネイティブパッケージのインストール 25
管理サーバーのインストール 26
Directory Proxy Server のインストール 28
必須パッチのインストール 29
管理サーバーの設定 30
Directory Proxy Server インスタンスの設定 30
すべてのプラットフォームでの圧縮アーカイブからのインストール 32

第 4 章 サイレントインストール 35
サイレントインストールの使用 35
saveState ファイルの作成 35
saveState ファイルを使用したインストール 37

第 5 章 アンインストール 39
UNIX プラットフォーム上でのアンインストール 39
Solaris でのネイティブパッケージのアンインストール 40
Directory Proxy Server インスタンスの削除 40
管理サーバーの設定解除 40
パッケージの削除 41
Solaris 以外の UNIX システムでのアンインストール 41
対話式のアンインストール 41
サイレントアンインストール 42
Windows プラットフォーム上でのアンインストール 44
Windows での変更と削除 44
コマンド行 44
アンインストールプログラムの使用 45

付録 A 設定の移行 47
移行の準備 47
Directory Proxy Server 5.2 への移行 48
SSL の設定 50

本書について

Sun™ Open Network Environment (Sun ONE) Directory Proxy Server について紹介します。このマニュアルでは、Directory Proxy Server をインストールする前に決定しておく設計および計画に関する概要を説明します。さらに、複数の異なるインストール方法についても説明します。

この章では次の項目について説明します。

- 要件 (7 ページ)
- 表記上の規則 (8 ページ)
- 関連情報 (8 ページ)

要件

Directory Proxy Server をインストールする前に、『Sun ONE Directory Server Deployment Guide』をお読みください。この『Sun ONE Directory Server Deployment Guide』には、ディレクトリサービスの設計および計画方法に関する重要な概念が説明されています。このマニュアルの入手先については、8 ページの「関連情報」を参照してください。

『Sun ONE Directory Proxy Server Administrator's Guide』に示されている導入ガイドラインについても確認してください。

ディレクトリサービスの計画を立てたら、このマニュアルの手順に従って Directory Proxy Server および関連ソフトウェアコンポーネントをインストールします。

表記上の規則

このマニュアルで使用している表記上の規則について説明します。

クーリエ （固定スペースフォント): コンピュータの画面に表示されるテキストおよび入力するテキストに使用します。また、ファイル名、機能および例にも使用します。

> : 大なり括弧 (>) は一連のメニューの選択を分割するセパレータです。たとえば、「オブジェクト」> 「新規」> 「ユーザー」は、「オブジェクト」メニューのプルダウンメニューを開き、マウスをドラッグして「新規」を強調表示し、「新規」のサブメニューから「ユーザー」を選択することを意味します。

注	「注」、「注意」は、重要な情報です。必ずこれらの情報を読んでから、作業を続けてください。

このマニュアルでは、次の形式でパスを示します。

`/var/Sun/mps/dps-<hostname>/`

`/usr/sun/servers` は、デフォルトのインストールディレクトリです。Directory Proxy Server を別の場所にインストールした場合は、それに対応してパスを変更してください。*<hostname>* は、Directory Proxy Server をインストールしたホストマシン名です。たとえば、Directory Proxy Server を `pilot` という名前のマシンにインストールすると、実際のパスは次のようになります。

`/var/Sun/mps/dps-pilot/`

このマニュアルで示すパスはすべて UNIX 形式です。

関連情報

このリリースの Directory Proxy Server のマニュアルセットには、次のマニュアルが含まれています。

『Sun ONE Directory Proxy Server リリースノート』

このリリースの新機能、製品のインストールに関するソフトウェアとハードウェアの要件、重要な注意事項と既知の問題、最新の製品情報、およびフィードバックの送信に関する情報を示します。

『Sun ONE Directory Proxy Server インストールガイド (本書)』

Directory Proxy Server のインストール計画およびインストール方法について説明します。リリースノートを読んでから、このインストールガイドを読んでください。このマニュアルは、HTML と PDF の両方の形式で提供されています。

『Sun ONE Directory Proxy Server Administrator's Guide』

Directory Proxy Server の構成および管理について詳しく説明します。このマニュアルは、HTML と PDF の両方の形式で提供されています。

『Sun ONE Directory Proxy Server Frequently Asked Questions』

Directory Proxy Server についてのよくある質問に対する回答、説明、およびトラブルシューティングに関する情報を提供します。このマニュアルは、HTML と PDF の両方の形式で提供されています。『Directory Proxy Server Administrator's Guide』の付録に同じマニュアルが含まれています。

インストール手順に従って `setup` スクリプトを実行した後に、次のファイルを使用して製品と共にインストールされるマニュアルを確認してください。

`<`*server-root*`>/manual/en/dps/index.htm`

`<`*server-root*`>` は Directory Proxy Server のインストールディレクトリです。

Directory Proxy Server についての最新の情報 (リリースノート、テクニカルノート、導入情報を含む) については、次の Web サイトを参照してください。

`http://docs.sun.com`

その他の有用な情報は次の Web サイトから入手できます。

- 製品のオンラインマニュアル : `http://docs.sun.com`
- 製品サポートおよび状況 : `http://jp.sun.com/service/support/index.html`
- Sun Enterprise Service for Solaris™ のパッチとサポート : `http://jp.sun.com/service/`
- 開発者向けの情報 : `http://jp.sun.com/developers/`
- サポートおよびトレーニングの情報 : `http://jp.sun.com/supportraining`
- 製品のデータシート : `http://jp.sun.com/software/`

ユーザー補助機能

Java™ Foundation Classes (JFC) に基づいて、Sun ONE Directory Proxy Server コンソールでは、障害をもつユーザーのための支援ソフトウェアおよび技術をサポートしています。この節では、Sun ONE Directory Proxy Server コンソールの補助機能、およびマニュアルセットの改善された箇所について説明します。

コンソールの補助機能

次に示す補助機能の多くは、JFC/Swing! コンポーネントを利用して自動的に提供されます。

分かりやすい名前および説明

すべてのオブジェクトには、分かりやすい名前 (オブジェクトの使用目的を簡単に示したもの) が付いています。名前を使用して、補助機能はオブジェクトをユーザーに表示します。分かりやすい説明では、オブジェクトについてのより詳細な情報が提供されます。

カスタマイズ可能なフォント

テキストペイン、メニュー、ラベル、および情報メッセージのフォントスタイルおよびサイズをカスタマイズできます。

カラーコードを使用して情報伝達は行われますが、それが唯一の方法ではありません。

ダイナミック GUI のレイアウト

ダイナミックレイアウトを使用して、Directory Proxy Server のウィンドウサイズおよび位置を指定できます。また、その指定をユーザー設定として確定できます。

キーボードで操作できるコンポーネント

この補助機能は、マウスを使用するのが困難なユーザーに対応しています。Tab キーを押すと、入力フォーカスが、あるコンポーネントから別のコンポーネントに移動し、Shift キーを押しながら Tab キーを押すと、フォーカスは反対方向に移動します。矢印キーを使用すると、マウスを使用しないでツリーをナビゲートできます。

フォーカスはプログラムで検出されるため、支援ソフトウェアでフォーカスやフォーカスの変更を追跡することができます。

テキスト以外の要素と同等のテキスト要素

プログラム要素が画像で示されている場合、その情報はテキストでも提供されます。

マニュアルの補助機能

Sun ONE Directory Proxy Server 5.2 のマニュアルセットは、PDF と HTML 形式の両方で入手できます。ここでは、HTML 形式のマニュアルの補助機能について説明します。

テキスト以外の要素と同等のテキスト要素

補助的なテキストラベルは、リンクあるいはグラフィックに割り当てられます。グラフィックを説明するテキストは周辺テキスト、または別のファイルで提供されます。

補助技術で解釈可能なテーブル

すべてのテーブルには、説明的なヘッダーが含まれています。テーブルの内容については、周辺テキストでも簡潔に説明されています。

第 1 章

インストールの準備

Directory Proxy Server をインストールする前に、Directory Proxy Server のさまざまなコンポーネントについて、また事前に決定しなければならない設計と設定について理解しておく必要があります。

以降の節で説明する概念を理解して、Directory Proxy Server のインストールの準備を行なってください。

- インストールコンポーネント
- 設定の決定
- インストールプロセスの概要
- インストール特権

『Sun ONE Directory Server Deployment Guide』には、基本的なディレクトリの概念と、ディレクトリサービスの設計および導入に役立つガイドラインが示されています。インストール作業を開始する前に、このマニュアルで説明されている概念を理解しておいてください。

注 管理サーバーおよび Directory Proxy Server ともに、Sun ONE Directory Server 5.2 あるいはそれ以降のバージョンのインスタンスがすでにインストールされていて、ネットワーク上でアクセスできる状態であることが必要です。Directory Server は Directory Proxy Server の構成リポジトリとして機能します。

インストールコンポーネント

Directory Proxy Server には、次のソフトウェアコンポーネントが含まれています。

- **Sun ONE コンソール** : Sun ONE Directory に関連するすべてのサーバー製品に共通のユーザーインタフェースを提供します。このインタフェースから、サーバーの起動や停止、およびユーザー情報とグループ情報の管理など、共通のサーバー管理機能を実行できます。Sun ONE コンソールはスタンドアロンアプリケーションとして任意のマシン上にインストールできます。ネットワーク上にインストールして、リモートサーバーを管理することもできます。
- **Sun ONE 管理サーバー** : ほとんどの Sun ONE サーバーに共通のフロントエンドです。Sun ONE コンソールから通信を受け取り、それを適切な Sun ONE サーバーに渡します。サイトでは、Sun ONE サーバーをインストールした各サーバールートに対して少なくとも 1 つの管理サーバーが存在することになります。
- **Sun ONE Directory Proxy Server** : クライアントからの要求を 1 つまたは複数の Directory Server に配信する LDAP ゲートウェイです。Directory Proxy Server は、UNIX ではデーモンプロセスとして、Windows ではサービスとして実行します。

設定の決定

Directory Proxy Server のインストール時には、基本的な設定情報を入力する必要があります。インストールを始める前に、これらの基本的なパラメータの設定方法を決めておいてください。実行するインストールのタイプに応じて、次の項目の一部またはすべてを入力する必要があります。

- ポート番号 (「一意のポート番号の選択」を参照)
- サーバールート (「新しいサーバールートの選択」を参照)
- 設定管理者およびパスワード (「認証エンティティの定義」を参照)

一意のポート番号の選択

ポート番号には 1 ～ 65535 の任意の数を指定できます。Directory Proxy Server のポート番号を選ぶ場合は、次の点に注意してください。

- 標準の Directory Proxy Server (LDAP) ポート番号は 389 です。
- ポート番号 636 は SSL 経由の LDAP 用に予約されています。したがって、ポート番号 636 が使用されていない場合でも、標準の LDAP インストールでポート番号 636 を使用しないでください。標準 LDAP ポートで、TLS 経由の LDAP を使用することもできます。

- ポート番号 1 ～ 1024 は IANA (Internet Assigned Numbers Authority) によってさまざまなサービスに割り当てられています。ほかのサービスとの重複をさけるため、1024 以下のポート番号 (389 と 636 を除く) はディレクトリサービスで使用しないでください。
- UNIX プラットフォーム上では、1024 以下のポート番号で待機する場合は、Directory Proxy Server をスーパーユーザーとして実行する必要があります。
- 選択したポートがすでに使用されていないことを確認してください。また、LDAP 通信と LDAPS 通信の両方を使用している場合は、これら 2 種類のアクセスに使用されているポート番号が同じでないことを確認してください。
- 旧バージョンから移行する際に同じホストに移行インストールした場合、ポートが重複していないことを確認してください。移行では、旧バージョンの Directory Access Router で設定したポート番号が使用されます。

Directory Proxy Server 用の LDAPS (SSL 経由の LDAP) の設定方法については、『Directory Proxy Server Administrator's Guide』を参照してください。

新しいサーバールートの選択

サーバールートとは、Sun ONE サーバーをインストールするディレクトリです。サーバールートは、次の要件を満たしている必要があります。

- サーバールートはローカルディスクドライブ上のディレクトリでなければならず、ネットワークドライブにインストールすることはできません。AFS、NFS、SMB などのファイル共有プロトコルは、Directory Proxy Server のロギングに適したパフォーマンスを提供しません。
- Directory Access Router の古いインスタンスで使用したサーバールートを使用することはできません。
- インストールプログラムを実行しているディレクトリをサーバールートディレクトリにすることはできません。

デフォルトでは、サーバールートディレクトリは次のいずれかになります。

- `/var/Sun/mps` (UNIX システム)
- `C:¥Program Files¥Sun¥MPS` (Windows システム)

認証エンティティの定義

Directory Proxy Server のインストール時に、設定ディレクトリの管理者 ID およびパスワードを入力する必要があります。

設定ディレクトリの管理者は、Sun ONE コンソールを介してアクセスできるすべての Sun ONE サーバーの管理を行います。設定ディレクトリ管理者の ID を使用してログインすると、Sun ONE コンソールのサーバートポロジ領域に表示されるすべての Sun ONE サーバーを管理できます。

セキュリティ上の理由から、設定ディレクトリ管理者とディレクトリマネージャは別にすることをおすすめします。デフォルトの設定ディレクトリ管理者 ID は `admin` です。

設定ディレクトリの位置の決定

Directory Proxy Server を含む Sun ONE サーバーの多くは、Sun ONE Directory Server のインスタンスを使用して設定情報を格納します。設定情報は、`o=NetscapeRoot` ディレクトリツリーに格納されます。設定ディレクトリは、Sun ONE サーバーが使用する `o=NetscapeRoot` ツリーを含む Directory Server です。

アップグレードを容易にするために、`o=NetscapeRoot` ツリーをサポートする専用の Directory Server インスタンスを使用してください。このインスタンスでは、エンタープライズディレクトリデータの管理に関するほかの機能を実行しないでください。

通常、設定ディレクトリに対するトラフィックは非常に少ないので、Directory Proxy Server インスタンスと同じマシン上にサーバーインスタンスを置くことができます。ただし、多くの Sun ONE サーバーをインストールしているサイトでは、下位マシンを設定ディレクトリ専用にし、他のサーバーのパフォーマンスが低下しないようにしてください。

また、ディレクトリのインストール時は、設定ディレクトリをレプリケートして、可用性と信頼性を向上させることを検討してください。レプリケーションおよび DNS ラウンドロビンを使用してディレクトリの可用性を向上させる方法についての詳細は、『Sun ONE Directory Server Deployment Guide』を参照してください。

警告 設定ディレクトリツリーが壊れると、設定ディレクトリに登録していたほかのすべての Sun ONE サーバーを再インストールする必要があります。設定ディレクトリを扱う際は、次のガイドラインに留意してください。

新しく Sun ONE サーバーをインストールした際には、必ず設定ディレクトリのバックアップを行なってください。

設定ディレクトリで使用しているホスト名あるいはポート番号を決して変更しないでください。

設定ディレクトリツリーを決して直接変更しないでください。設定の変更は、各種 Sun ONE サーバーのインストーラプログラムでのみ行なってください。

インストールプロセスの概要

Directory Proxy Server のインストールは、いくつかのインストールプロセスから選択できます。どの方法でもインストールプロセスを通してガイドが表示され、さまざまなコンポーネントを正しい順番でインストールできます。

以降の節では利用できるインストールプロセス、旧リリースの Directory Proxy Server からのアップグレード方法、およびインストールの準備としてソフトウェアの解凍方法について概要を示します。

インストールプロセスの選択

インストールプログラムに用意された次の 2 つのインストール方法のうち、いずれかの方法で Directory Proxy Server をインストールします。

- **標準インストール** : Directory Proxy Server の通常のインストールを実行する場合は、この方法を使用します。標準インストールについては、第 3 章「インストール」を参照してください。
- **サイレントインストール** : インストールプロセスをスクリプト化する場合は、この方法を使用します。この方法は、企業で複数のコンシューマサーバーをインストールする場合に適しています。サイレントインストールについては、第 4 章「サイレントインストール」を参照してください。

ソフトウェアの解凍

Sun ONE Web サイトから Directory Proxy Server ソフトウェアを入手した場合は、ソフトウェアを解凍してからインストールを始めます。

1. インストール用に新しいディレクトリを作成します。

   ```
   # mkdir dps
   # cd dps
   ```

2. インストールディレクトリに製品のバイナリファイルをダウンロードします。
3. UNIX の場合は、次のコマンドを実行して製品のバイナリファイルを解凍します。

   ```
   # gzip -dc file_name.tar.gz | tar -xvf -
   ```

   file_name は解凍するバイナリファイル名です。

   Windows の場合は、製品バイナリを解凍します。

インストール特権

Linux および Solaris では、root あるいは有効なログイン名を使用してインストールします。root としてインストールし、1024 以下のポートでサーバーを実行する場合、root 以外のユーザーは、サーバーを起動できません。

Windows では、管理者 (`Administrator`) としてインストールします。

第 2 章

コンピュータシステムの要件

Sun ONE Directory Proxy Server をインストールする前に、ソフトウェアをインストールするシステムが、ハードウェアおよびオペレーティングシステムの最低限の要件を満たしているかどうかを確認しておく必要があります。

次の節で、これらの要件についてプラットフォームごとに詳しく説明します。

- サポートされているプラットフォーム (19 ページ)
- オペレーティングシステムの要件 (20 ページ)
- ハードウェアの要件 (20 ページ)

サポートされているプラットフォーム

Directory Proxy Server は次のプラットフォームでサポートされています。

- Solaris 8 あるいは Solaris 9 の SPARC 版 (32 ビットを含む) オペレーティング環境
- Solaris 9 の Intel 版
- Windows 2000 Server、および Advanced Server with Windows 2000 Service Pack 3
- Redhat Linux 7.2
- Linux for Sun 5.0

注 次の節の説明に従い、各プラットフォームに必要なパッチとカーネルのパラメータ設定を確認してください。

ハードウェアの要件

すべてのプラットフォームにおいて、次の要件を満たしている必要があります。

- 最小限のインストールに必要な約 300M バイトのディスク容量
- 256M バイトの RAM

オペレーティングシステムの要件

この節では、各プラットフォームで必要なオペレーティングシステムのバージョン、パッチ、およびユーティリティについて説明します。

- Solaris 環境
- Windows 環境
- パッチの入手

Solaris 環境

Solaris 環境で Directory Proxy Server を実行する場合、推奨パッチクラスタがインストールされていることを確認してください。Solaris パッチは、106125-10 のように 2 つの数字で識別されます。始めの数字 (106125) はパッチを識別します。2 番目の数字 (10) はパッチのバージョンを示しています。最新の修正が反映されるように、最新バージョンのパッチをインストールすることをお勧めします。

セキュリティ上の問題に対応する方法については、次のサイトの「Solaris Operating Environment Security Sun Blueprint」を参照してください。
`http://www.sun.com/blueprints/0100/security.pdf`

システムモジュールの要件

Directory Proxy Server は UltraSPARC チップセットを搭載したシステム用に最適化されています。

推奨パッチがインストールされている Solaris 8 あるいは Solaris 9 の使用が必須です。必要なすべてのパッチが含まれていることを確認する手順については「システムのチューニング」を参照してください。

Sun ONE Directory Server 5.2 は、Solaris の x86 版では Solaris 9 でのみサポートされています。

Sun ONE Directory Server 5.2 は、Solaris 2.5.1 以前のリリース、Solaris 2.6、あるいは Solaris 7 ではサポートされていません。

システムのチューニング

Sun ONE ディレクトリ製品に基づくサービスを導入して、最適なパフォーマンスを実現するには、システムをチューニングする必要があります。基本的な Solaris のチューニングに関するガイドラインは、『Sun Performance and Tuning: Java and the Internet (ISBN 0-13-095249-4)』などのガイドブックに記載されています。詳細なチューニング情報は、『Solaris Tunable Parameters Reference Manual (806-4015)』を参照してください。

`idsktune` は Solaris カーネルチューニングパラメータを解析して、パフォーマンスを向上させるために必要な修正に関して報告します。このプログラムはパッケージの解凍先ディレクトリにあります。このプログラムでシステムは修正されません。

ファイル記述子

Directory Proxy Server に確立できる同時接続数は、システム全体のファイル記述子テーブルの最大サイズで指定します。管理パラメータ `rlim_fd_max` は、`/etc/system` ファイル内に設定されます。このパラメータが存在しない場合、デフォルトで最大サイズは 1024 に設定されています。`/etc/system` に次の行を追加して、4096 まで設定することができます。

```
set rlim_fd_max=4096
```

行を追加したら、システムを再起動してください。このパラメータを 4096 よりも大きな値に設定する場合は、システムの安定性に影響を及ぼす可能性があるため、ご購入先にお問い合わせください。

TCP のチューニング

デフォルトでは、Solaris カーネルの TCP/IP 実装は、インターネットあるいはインターネットサービス用にチューニングされていません。次の `/dev/tcp` チューニングパラメータを調べて、必要であればインストール環境のネットワークトポロジに合わせて変更してください。

Solaris 8 の `tcp_time_wait_interval` では、TCP 接続を閉じてからカーネルのテーブル内で接続を維持する時間をミリ秒単位で指定します。設定値が 30000 (30 秒) よりも大きく、ディレクトリが LAN、MAN、あるいは単一のネットワーク管理下で使用されている場合、`/etc/init.d/inetinit` ファイルに次のような行を追加して、値を減らす必要があります。

```
ndd -set /dev/tcp tcp_close_wait_interval 30000
```

tcp_conn_req_max_q0 パラメータおよび tcp_conn_req_max_q パラメータは、Directory Proxy Server 処理のためにカーネルが受け入れる接続のバックログの最大値を制御します。多数のクライアントが 1 つのディレクトリを同時に使用することが予想される場合、/etc/init.d/inetinit ファイルに次のような行を追加して、値を最低 1024 に増やす必要があります。

```
ndd -set /dev/tcp tcp_conn_req_max_q0 1024
ndd -set /dev/tcp tcp_conn_req_max_q 1024
```

tcp_keepalive_interval は、各 TCP 接続に対して、Solaris がキープアライブパケットを送信する間隔を秒単位で指定します。このパラメータは、ネットワークから接続を中止したクライアントへの接続を削除する場合にも使用できます。Directory Proxy Server コンソールの設定画面上の、アイドル接続のタイムアウトを指定するタイムアウトオプション (秒単位) も、同じように使用できます。

LAN あるいは 高速の MAN や WAN でサーバーのパフォーマンステストを行う場合は、tcp_rexmit_interval_initial の値を確認します。広域インターネット上で運用している場合、この値を変更する必要はありません。

tcp_smallest_anon_port は、サーバーへの同時接続の数を制御します。rlim_fd_max の値が 4096 よりも大きくなった場合、/etc/init.d/inetinit ファイルに次のような行を追加して、値を減らす必要があります。

```
ndd -set /dev/tcp tcp_smallest_anon_port 8192
```

クライアントが主に Windows TCP/IP スタックを使用する場合は、tcp_slow_start_initial パラメータを確認します。

tcp_ip_abort_cinterval は、新しく接続を確立する際、Directory Proxy Server が LDAP サーバーの応答を待つ時間をミリ秒単位で設定し、制御します。通常、/etc/init.d/inetinit のファイルに次のような値を追加して、この値を減らすことができます。

```
ndd -set /dev/tcp tcp_ip_abort_cinterval 10000
```

環境によっては、tcp_ip_abort_interval および tcp_strong_iss のチューニングパラメータも変更する必要があります。

Windows 環境

この節では、Windows 環境で Directory Proxy Server をインストールする場合のシステムの準備方法について説明します。

特権

管理者特権をもつユーザーとしてログオンします。

TEMP 環境

TEMP 環境変数を一時ファイル用の有効なフォルダに設定します。

ディスプレイドライバ

ディスプレイドライバが最低 256 色をサポートしているか確認してください。

パッチの入手

この製品の Solaris パッケージ版以外をインストールする場合は、必ず必要なパッチをインストールしてください。必要なパッチの入手先については、表 2-1 を参照してください。

表 2-1　各プラットフォーム別のパッチの入手先

プラットフォーム	参照先
Solaris オペレーティング環境	http://sunsolve.sun.co.jp/
Microsoft Windows	http://support.microsoft.com/
Red Hat Linux	http://www.jp.redhat.com/
Linux for Sun	http://sunsolve.sun.co.jp/

第 3 章

インストール

この章では、基本的なインストール手順について説明します。Directory Proxy Server を UNIX 上にインストールするか、Windows 上にインストールするかでインストール方法が異なります。

以降の節では、それぞれの手順の概要を示します。

- Solaris 上へのネイティブパッケージのインストール
- すべてのプラットフォームでの圧縮アーカイブからのインストール

Solaris 上へのネイティブパッケージのインストール

20 ページの「オペレーティングシステムの要件」に示されている手順を実行してから、パッケージのインストールおよび設定手順を実行します。

- 管理サーバーのインストール
- Directory Proxy Server のインストール
- 必須パッチのインストール
- 管理サーバーの設定
- Directory Proxy Server インスタンスの設定

`pkgadd`(1M) ユーティリティを使用して、Solaris パッケージをインストールします。アップグレードを実行する時など、どのパッケージがインストールされているのかを `pkginfo`(1) を使用して調べます。複数のホストにパッケージをインストールする場合、`admin`(4) に示されているインストールのデフォルトファイルを介して、デフォルトのインストール処理を定義します。

ソフトウェアパッケージの使用方法に関する詳細は、Solaris オペレーティング環境のシステム管理に関するマニュアルを参照してください。

管理サーバーのインストール

表 3-1 および表 3-2 に、このリリースで提供されている管理サーバーの Solaris パッケージの一覧を示します。

1. 表 3-1 あるいは表 3-2 に示されているすべてのパッケージを検討してください。

表 3-1 提供されている Solaris パッケージ (SPARC プラットフォーム)

パッケージ	内容
SUNWasha	Sun ONE Administration Server Component for Sun Cluster
SUNWasvc	Sun ONE Administration Console
SUNWasvcp	Sun ONE Administration Server Console Plug-In
SUNWasvr[1]	Sun ONE Administration Server (Root)
SUNWasvu	Sun ONE Administration Server (Usr)
SUNWicu	International Components for Unicode User Files
SUNWjss	Network Security Services for Java (JSS)
SUNWldk	LDAP C SDK
SUNWpr	Netscape Portable Runtime Interface
SUNWsasl	Simple Authentication and Security Layer
SUNWtls	Network Security Services

1. SUNWasvr は再配置できません。

表 3-2 提供されている Solaris パッケージ (x86 プラットフォーム)

パッケージ	内容
SUNWasvc	Sun ONE Administration Console
SUNWasvcp	Sun ONE Administration Server Console Plug-In
SUNWasvr[1]	Sun ONE Administration Server (Root)
SUNWasvu	Sun ONE Administration Server (Usr)
SUNicu	International Components for Unicode User Files
SUNWjss	Network Security Services for Java (JSS)
SUNWldk	LDAP C SDK
SUNWpr	Netscape Portable Runtime Interface

表 3-2　提供されている Solaris パッケージ (x86 プラットフォーム) (続き)

パッケージ	内容
SUNWsasl	Simple Authentication and Security Layer
SUNWtls	Network Security Services

1. SUNWasvr は再配置できません。

2. スーパーユーザーになります。
3. インストールするパッケージが、pkginfo を使用してインストール済みではないことを確認します。

   すでにシステムにインストールされているパッケージは再インストールしないでください。
4. pkgadd(1M) ユーティリティを使用して、製品パッケージをシステムに転送します。

   たとえば、次のようにします。

   ```
   # pkgadd -d dirContainingPackages
   ```

   pkgadd コマンドを終了する前に、必要な製品パッケージがすべてインストールされているかを確認します。

パッケージをインストールしたら、必要なパッチがインストールされているか確認します。

Directory Proxy Server のインストール

表 3-1 に、このリリースで提供されている SPARC および x86 プラットフォーム用の Solaris パッケージの一覧を示します。

1. 表 3-3 に示されているすべてのパッケージを検討してください。

表 3-3 提供されている Solaris パッケージ (SPARC および x86 プラットフォーム)

パッケージ	内容
`SUNWdps`	Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Server
`SUNWdpsg`	Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Configurator
`SUNWdpsi`	Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Server Instance

2. スーパーユーザーになります。
3. インストールするパッケージが、`pkginfo` を使用してインストール済みではないことを確認します。

   すでにシステムにインストールされているパッケージは再インストールしないでください。
4. `pkgadd`(1M) ユーティリティを使用して、製品パッケージをシステムに転送します。

   たとえば、次のようにします。

   `# pkgadd -d` *dirContainingPackages*

   `pkgadd` コマンドを終了する前に、必要な製品パッケージがすべてインストールされているかを確認します。

パッケージをインストールしたら、必要なパッチがインストールされているか確認します。

必須パッチのインストール

問題の修正および推奨システムパッチを含んだ更新が提供されている場合があります。

1. `pkginfo`(1) コマンドの `-x` オプションを使用して、システムにどのパッケージがインストールされているか調べます。表 3-4 に表示されているとおり、パッケージの適切なバージョンがシステムにインストールされているかを確認します。

表 3-4 コンポーネントに適切なバージョンおよびパッチ

システムのバージョンおよびアーキテクチャ	SUNWpr(x) バージョン	SUNWtls(x) バージョン	パッチ
Solaris 9 (SPARC プラットフォーム)	4.1.2 以降	3.3.2 以降	114049 115342
Solaris 9 (x86 プラットフォーム)	4.1.3 以降	3.3.3 以降	114050 115343
Solaris 8 (SPARC プラットフォーム)	4.1.2 以降	3.3.2 以降	114045 115328

2. `showrev`(1M) の `-p` オプションを使用して、表 3-4 に示されている適切なパッチがプラットフォームに適用されたかを確認します。
3. 表 3-5 のヒントを使用して、コンポーネントにパッチを適用するかを判断します。

表 3-5 パッチを適用するかの判断

システム上の状態	実行事項
パッケージはインストール済みで、パッチも適用済み	手順 4 に進む
パッケージはインストール済みだが、パッチは適用されていない	Directory Proxy Server が提供する、プラットフォームに適切なパッチを適応する
パッケージがインストールされていない	Directory Proxy Server が提供するパッチの適用前のパッケージをインストールする

4. スーパーユーザーとして次のコマンドを実行します。

   ```
   # ./idsktune -q > idsktune.out
   ```

   `idsktune` はセットアップコマンドと同じディレクトリにあります。

   `idsktune` では、システムに加えることのできる変更を示します。このサブコマンドでは、システムを変更することはありません。

5. 最低限、表示されたすべての ERROR を修正します。

   ERROR を修正しないと、インストールに失敗する可能性があります。idsktune サブコマンドは、リリース時に推奨されているパッチのうち、まだインストールされていないすべてのパッチを報告します。さらにシステムにインストールしていないパッケージのパッチも報告されます。

   パッチは、http://sunsolve.sun.co.jp/ からダウンロードできます。

管理サーバーの設定

1. 設定プログラムを起動します。

   グラフィックユーザーインタフェースを使用する場合は、次のように入力します。

   ```
   # /usr/sbin/mpsadmserver configure
   ```

   コマンド行インタフェースを使用する場合は、次のように入力します。

   ```
   # /usr/sbin/mpsadmserver configure -nodisplay
   ```

   最初のインストール画面が表示されます。

2. 各画面の指示に従ってください。

Directory Proxy Server インスタンスの設定

Directory Proxy Server インスタンスを設定するには次の手順を実行します。

注 管理サーバーの所有者 (ユーザー ID) は、Directory Proxy Server インスタンスの所有者 (スーパーユーザー以外でも可) と同じである必要があります。

---

1. 設定プログラムを起動します。

   コマンド行インタフェースを使用する場合、ディレクトリを次のように変更します。

   ```
   # cd /usr/sadm/mps/admin/v5.2/dps
   ```

2. たとえば、quickstart.tcl スクリプトを次のように使用します。

```
# /usr/sadm/mps/admin/v5.2/bin/tcl8.2/tclsh quickstart.tcl -cid \
<cid_path> -listen <port number> -password <password> -serverroot \
<serverroot_path> -userid <dn>
```

次に quickstart.tcl の引数とその説明を示します。

引数 :	内容
-cid	プログラムが次のディレクトの存在を表明できるような完全指定パス (省略可) <*cid_path*>/bin/dps/install/script
-serverroot	インストールおよび設定済みの管理サーバーへの完全指定パス。スクリプトで次のファイルの存在を確認できる <*serverroot_path*>/admin-serv/config/adm.conf <*serverroot_path*>/admin-serv/config/jvm12.conf
-listen	Directory Proxy Server が待機するポート番号
-userID	管理サーバー管理者のユーザー識別名 (省略可)
-password	管理サーバー管理者のパスワード

Directory Proxy Server の起動に必要な設定を終了しました。

すべてのプラットフォームでの圧縮アーカイブからのインストール

次のように圧縮アーカイブからのインストールを行います。

1. Windows システムでは、管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
2. 製品バイナリファイルをインストールディレクトリにダウンロードしていない場合は、ダウンロードしてください。
3. 必要に応じて、製品バイナリファイルを解凍します。
4. ソフトウェアを解凍したディレクトリでインストールプログラムを起動します。

   Windows の場合は、`setup.exe` をダブルクリックします。

   ほかのプラットフォームでグラフィカルユーザーインタフェースを利用する場合は、次のコマンドを入力します。

   ```
   # ./setup
   ```

   ほかのプラットフォームでコマンド行インタフェースを利用する場合は、次のコマンドを入力します。

   ```
   # ./setup -nodisplay
   ```

   最初のインストール画面が表示されます。
5. インストールを継続するかどうかをインストーラから確認されます。継続する場合は、「次へ」をクリックします。
6. サーバールートに、サーバーをインストールする場所の完全指定パスを入力します。「参照」をクリックすると、参照機能を使用して場所を検索できます。

   この場所には、インストーラを実行しているディレクトリ以外の場所を入力してください。

   Windows システムの場合、インストールプログラムは次のパスを指定します。

   ```
   C:¥Program Files¥Sun¥MPS
   ```

   ソフトウェアをこのディレクトリツリーにインストールする場合は、「次へ」をクリックしてください。別のディレクトリにインストールする場合は、インストールしたいディレクトリへのパスを入力してください。
7. 「コンポーネントの選択」画面が表示されます。Sun ONE Directory Proxy Server 5.2 コンポーネントが選択されていることを確認してから、「次へ」をクリックします。
8. 設定ディレクトリ管理者 ID およびパスワードに、管理者特権を使用してコンソールを認証する場合にログインする名前とパスワードを入力します。

9. Directory Proxy Server ポートに、ほかのアプリケーションで使用していなければデフォルトの 389 を指定します。
10. Directory Proxy Server のインスタンス名を入力します。

    この名前は、設定情報と Directory Proxy Server インスタンスを制御するスクリプトのグループを表します。
11. 起動プログラムが、インストール対象のコンポーネントの概要を一覧表示します。「今すぐインストール」をクリックして、インストールを開始します。

    インストールの実行中は、進行状況を示すバーが表示されます。サーバーの解凍、および最低限の設定が終了し、サーバーが起動されます。
12. インストールが完了すると、セットアッププログラムがインストールの概要ページを表示します。「詳細」を選択すると、インストールのログが表示されます。「閉じる」を選択してセットアップを終了します。

第 4 章

サイレントインストール

サイレントインストールでは、通常はセットアッププログラムに対して対話式の操作で入力するすべての項目を、1 つのファイルに事前に定義しておくことができます。これによって、Sun ONE Directory Proxy Server のインストールをスクリプト化することができます。

サイレントインストールの使用

サイレントインストールの準備として次を行います。

- saveState ファイルの作成
- saveState ファイルを使用したインストール

saveState ファイルの作成

saveState ファイルを作成するには、次の 2 つの方法があります。

- `-savestate` *file_name* オプションを使用してインストールを実行します。この方法では、製品をインストールしてから、次の手順 1 から手順 4 に従って、インストールに関する saveState ファイルを作成します。
- もう 1 つの方法は、既存の saveState ファイルをコピーしてから、手順 5 に示されているコマンドを使用して、インストール用に編集します。あるいは、サンプルファイルを使用して手動で saveState ファイルを作り、手順 5 で示されているコマンドを使用して直接そのファイルを使用することもできます。

1. 新しいディレクトリを作成します。

```
# mkdir dps
```

```
# cd dps
```

2. 製品バイナリファイルをインストールディレクトリにダウンロードしていない場合は、ダウンロードしてください。
3. 製品バイナリを解凍します。
4. `-saveState` <*file name*> コマンド行オプションを使用して、セットアッププログラムを実行します。

   ソフトウェアを解凍したディレクトリでインストールプログラムを起動します。

   ほかのプラットフォームでコマンド行インタフェースを利用する場合は、次のコマンドを入力します。

   `# ./setup -saveState` *file_name*

   file_name は、インストール指示を含むファイルへのパスと任意のファイル名です。

   標準インストールの各手順で入力した回答は saveState ファイルに記録されます (「インストール」を参照)。

   次に saveState ファイルの例を示します。

```
# Wizard Statefile created: Tue May 27 15:34:01 CDT 2003
#              Wizard path:
/tmp/dps1/setup_data/./Sun_ONE_Directory_Proxy_Server_v5_2.class
#
#
# Install Wizard Statefile section for Sun ONE Directory Proxy
Server v5.2
#
#
[STATE_BEGIN Sun ONE Directory Proxy Server v5.2
684ac863607992f06b9e37fb2b294db8553196e6]
defaultInstallDirectory = /var/Sun/mps
currentInstallDirectory = /var/sample
com.sun.dps.setup.DpsComponentPanel.selectedcomponents = Sun ONE
Directory Proxy Server v5.2 Components,Sun ONE Directory Proxy
Server v5.2 Server,Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Server
Installer,Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Configurator,Sun
ONE Directory Proxy Server v5.2 Configurator Installer,Sun ONE
Directory Proxy Server v5.2 Instance,Sun ONE Directory Proxy
Server v5.2 Instance Installer,Sun ONE Directory Proxy Server
v5.2 Server,Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Server
Installer,Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Configurator,Sun
ONE Directory Proxy Server v5.2 Configurator Installer,Sun ONE
Directory Proxy Server v5.2 Instance

FullMachineName = thrush.example.sun.com
ConfigDirectoryPort = 19389
```

```
ConfigDirectoryHost = spleen.example.sun.com
ConfigDirectoryAdminPwd = secret00
ConfigDirectoryAdminID = admin
AdminDomain = example.sun.com
AdminPort = 1760
AdminSysGroup = wheel
AdminSysUser = test user
ServerGroup = wheel
ServerUser = test user
DPS_LISTEN_PORT = 1761
DPS_INSTANCE_SUFFIX = thrush
ldapServerURL =
ldapBindingDN =
ldapPasswd =
[STATE_DONE Sun ONE Directory Proxy Server v5.2
684ac863607992f06b9e37fb2b294db8553196e6]
```

注 この例中の、STATE_BEGIN および STATE_DONE に続くシーケンス番号は、例として使用している値です。実際に使用するシーケンス番号は、setup-id を入力すると表示されます。

saveState ファイルを使用したインストール

5. 前の項で作成した saveState ファイルに基づいてサイレントインストールを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
# ./setup -state file_name
```

第 5 章

アンインストール

Sun ONE Directory Proxy Server を初期インストールしてから、不必要な Directory Proxy Server インスタンスを削除するか、あるいは Directory Proxy Server をすべてシステムからアンインストールする場合があります。

管理サーバーが実行中の場合にだけ、Directory Proxy Server を削除できます。管理サーバーが停止している場合は、必ず起動してください。セキュリティ上の危険を最小限にするため、Sun ONE コンソールの使用が終了した時、あるいはアンインストールが完了した時には管理サーバーを停止してください。

この章は、次の節で構成されています。

- UNIX プラットフォーム上でのアンインストール
- Windows プラットフォーム上でのアンインストール
- アンインストールプログラムの使用

UNIX プラットフォーム上でのアンインストール

アンインストールを実行すると、マシンからソフトウェアおよび関連データが削除されます。Directory Proxy Server は利用できなくなり、すべての設定およびデータが消失します。

アンインストールでは、サーバーのソフトウェアだけではなく、システムに格納されていたレジストリデータも削除されます。アンインストールプログラムを実行しないで手動でファイルを削除すると、レジストリが破損する場合があります。レジストリの破損を避けるためには、アンインストールプログラムを実行してから製品ファイルを手動で削除してください。

適切な項目に進んでください。

- Solaris でのネイティブパッケージのアンインストール
- Solaris 以外の UNIX システムでのアンインストール

Solaris でのネイティブパッケージのアンインストール

25 ページの「Solaris 上へのネイティブパッケージのインストール」でインストールした Directory Proxy Server パッケージを削除するには、この手順を実行してください。主な手順は次のとおりです。

- Directory Proxy Server インスタンスの削除
- パッケージの削除

Directory Proxy Server インスタンスの削除

`rminstance` スクリプトを使用して、Directory Proxy Server インスタンスの設定を解除します。`rminstance` スクリプトはファイル名だけを引数として受け入れます。`quickstart` を実行すると、コンテキストファイルがインスタンスルートに格納されます。

<*instance_root*>/`uninstallContext.tcl`

注 : <*instance_root*> は、<*serverroot_path*>/`dps-`<*hostname*> です。

インスタンスを削除するには、次の手順を行います。

1. 現在の作業ディレクトリから次のディレクトリに移動します。

   `/usr/sadm/mps/admin/v5.2/dps`

2. 次のコマンドを入力します。

   `./rminstance /var/test/dps-`*hostname*`/uninstallContext.tcl`

   上記例の `tclsh` は PATH の環境変数を想定しています。環境変数が異なる場合は次を入力してください。

   `/usr/sadm/mps/admin/v5.2/bin/tcl8.2/tclsh ./rminstance \`
   `/var/test/dps-`*hostname*`/uninstallContext.tcl`

注 `rm -rf` を使用して Directory Proxy Server を削除すると、設定ディレクトリサーバーホストは削除されません。

管理サーバーの設定解除

1. 必ず、管理サーバーが実行中であるか確認してください。停止している場合は起動します。
2. 管理サーバーの設定を削除します。

```
# /usr/sbin/mpsadmserver unconfigure
```

最初のアンインストール画面が表示されます。各画面の指示に従ってください。

パッケージの削除

pkgrm(1M) ユーティリティを使用して、25 ページの「Solaris 上へのネイティブパッケージのインストール」でインストールしたパッケージを削除します。

ソフトウェアパッケージの使用方法に関する詳細は、Solaris オペレーティング環境のシステム管理に関するマニュアルを参照してください。

1. スーパーユーザーになります。

```
$ su
Password:
#
```

2. pkgrm(1M) ユーティリティを使用して、製品パッケージをシステムから削除します。

```
# pkgrm SUNWdpsi SUNWdpsg SUNWdps
```

Solaris 以外の UNIX システムでのアンインストール

Solaris 以外の UNIX プラットフォーム上で、Directory Proxy Server を削除するには、対話式に、あるいはコマンド行を使用してサイレントで実行します。

対話式のアンインストール

Directory Proxy Server をアンインストールするには、次の手順を行います。

1. サーバーへのターミナルウィンドウを開きます。
2. UNIX システムでは、スーパーユーザーあるいはサーバーのユーザーアカウント (この方法でサーバーをインストールした場合) としてログインします。
3. コマンド行プロンプトで、次の行を入力します。

```
uninstall_Sun_ONE_Directory_Proxy_Server_v5_2
```

アンインストールプログラムが起動します (45 ページの「アンインストールプログラムの使用」を参照)。

サイレントアンインストール

アンインストールインタフェースを使用しないで、コマンド行から Directory Proxy Server をアンインストールするには、次の手順を行います。

1. サーバーへのターミナルウィンドウを開きます。
2. UNIX システムでは、スーパーユーザーあるいはサーバーのユーザーアカウント (この方法でサーバーをインストールした場合) としてログインします。
3. saveState ファイルのシリアル番号を入手します。次のコマンドを入力します。

   ```
   ./uninstall_Sun_ONE_Directory_Proxy_Server_v5_2 -id \
   684ac863607992f06b9e37fb2b294db8553196e6
   ```

4. セットアップ中に、-saveState オプションで作成した saveState ファイルを編集します (35 ページの「saveState ファイルの作成」を参照)。

   必要であれば、シリアル番号を上記の -id オプションで提供された saveState ファイルのシリアル番号に書き換えます。

   次に saveState ファイルの例を示します。

   ```
   # Wizard Statefile created: Tue May 27 15:34:01 CDT 2003
   #              Wizard path:
   /tmp/dps1/setup_data/./Sun_ONE_Directory_Proxy_Server_v5_2.class
   #
   #
   # Install Wizard Statefile section for Sun ONE Directory Proxy
   Server v5.2
   #
   #
   [STATE_BEGIN Sun ONE Directory Proxy Server v5.2
   684ac863607992f06b9e37fb2b294db8553196e6]
   defaultInstallDirectory = /var/Sun/mps
   currentInstallDirectory = /var/sample
   com.sun.dps.setup.DpsComponentPanel.selectedcomponents = Sun ONE
   Directory Proxy Server v5.2 Components,Sun ONE Directory Proxy
   Server v5.2 Server,Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Server
   Installer,Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Configurator,Sun
   ONE Directory Proxy Server v5.2 Configurator Installer,Sun ONE
   Directory Proxy Server v5.2 Instance,Sun ONE Directory Proxy
   Server v5.2 Instance Installer,Sun ONE Directory Proxy Server
   v5.2 Server,Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Server
   Installer,Sun ONE Directory Proxy Server v5.2 Configurator,Sun
   ONE Directory Proxy Server v5.2 Configurator Installer,Sun ONE
   Directory Proxy Server v5.2 Instance

   FullMachineName = thrush.example.sun.com
   ```

```
ConfigDirectoryPort = 19389
ConfigDirectoryHost = spleen.example.sun.com
ConfigDirectoryAdminPwd = secret00
ConfigDirectoryAdminID = admin
AdminDomain = example.sun.com
AdminPort = 1760
AdminSysGroup = wheel
AdminSysUser = test user
ServerGroup = wheel
ServerUser = test user
DPS_LISTEN_PORT = 1761
DPS_INSTANCE_SUFFIX = thrush
ldapServerURL =
ldapBindingDN =
ldapPasswd =
[STATE_DONE Sun ONE Directory Proxy Server v5.2
684ac863607992f06b9e37fb2b294db8553196e6]
```

5. コマンド行プロンプトで、次の行を入力します。

```
uninstall_Sun_ONE_Directory_Proxy_Server_v5_2 -state <filename>
```

システムから Directory Proxy Server インスタンスが削除されます。

Windows プラットフォーム上でのアンインストール

ホストシステムから Directory Proxy Server に関連するファイルを削除するには、アンインストールプログラムを実行します。Directory Proxy Server をアンインストールすると、Sun ONE コンソールのナビゲーションツリーから関連するすべての Directory Proxy Server インスタンスが削除されます。Windows の「アプリケーションの追加と削除」ユーティリティ、あるいはコマンド行を使用して、Directory Proxy Server を削除できます。

Windows での変更と削除

Windows の「アプリケーションの追加と削除」ユーティリティを使用して Directory Proxy Server を削除するには、次の手順を行います。

1. 管理者としてログインします。
2. 「スタート」メニューから、「設定」、「コントロールパネル」の順に選択します。
3. 「コントロールパネル」で、「アプリケーションの追加と削除」を選択します
4. 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウで、「Sun ONE Directory Proxy Server」を選択して「変更と削除」をクリックします。
5. 「Sun ONE Directory Proxy Server のアンインストール」ウィンドウで、すべてのコンポーネントが選択されていることを確認してから「アンインストール」をクリックします。

   アンインストールプログラムが起動します (「アンインストールプログラムの使用」を参照)。

コマンド行

コマンド行を使用して Directory Proxy Server をアンインストールするには、次の手順を行います。

1. サーバーの起動時に使用するサーバーのユーザーアカウントを使用して、ログインします。
2. サーバーへのターミナルウィンドウを開きます。
3. コマンド行プロンプトで、次の行を入力します。

   `cd` <*server_root*>

```
java "-Djava.library.path=<server_root>/setup"
uninstall_Sun_ONE_Directory_Proxy_Server_v5_2
```

アンインストールプログラムが起動します (45 ページの「アンインストールプログラムの使用」を参照)。

アンインストールプログラムの使用

1. 「ようこそ」画面で「次へ」をクリックします。

   プログラムの任意の位置で、「戻る」を選択すると前のウィンドウに戻ることができます。「取消し」を選択すると、アンインストールを取り消すことができます。

2. 「アンインストール」画面で、「完全」の横のボックスを選択してから「次へ」をクリックします。

   また、「部分的」を選択してから、Directory Proxy Server コンポーネントのリストでアンインストールするコンポーネントを選択することもできます。

3. プロンプトで、管理者 ID およびパスワードを入力します。

4. 概要ウィンドウが表示されます。アンインストールするコンポーネントを確認してから、「今すぐアンインストール」をクリックします。

   進行状況を示すバーが表示されている間に、Directory Proxy Server インスタンスの設定解除、およびアンインストールが実行されます。

5. 「詳細」を選択すると、アンインストールのログファイルが表示されます。

6. 「閉じる」を選択してアンインストールプログラムを終了します。

付録 A

設定の移行

Sun ONE Directory Proxy Server 5.2 をインストールする際、移行に関する問題があります。iPlanet Directory Access Router 5.0 から Directory Proxy Server 5.2 へ移行するための要件は次のとおりです。

- iPlanet Directory Access Router 5.0/SP1 および Directory Proxy Server 5.2 の両方がインストールされている
- 移行スクリプトを実行している
- 必要に応じて、Directory Proxy Server 5.2 サーバーに SSL を設定している

付録では、次の項目について説明します。

- 移行の準備
- Directory Proxy Server 5.2 への移行
- SSL の設定

移行の準備

移行作業を始める前に、次のことを確認してください。

- Directory Proxy Server は異なるサーバールートにインストールされている必要があります。既存の Directory Access Router と同じルートにインストールしないでください。
- 古いインスタンスと新しいインスタンスのポート番号が、アップグレード時に競合しないことを確認してください。2 つのサービスがポートで競合する場合、移行後には、必ずどちらか一方のサービスだけを実行するようにしてください。
- 移行後も古いサーバーインスタンスを使用することができます。使用しない場合はアンインストールしてください。
- Directory Access Router 5.0 あるいは 5.0 SP1 からの移行が可能です。

- 既存の Configuration Directory Server を使用する必要があります。
- UNIX から Windows プラットフォームへの移行のように、あるタイプのプラットフォームから異なるタイプのプラットフォームに移行する場合、設定パス名が不正になる場合があります。この場合は、適切な設定パス名に変更してください。
- 古い SSL 設定を移行すると、新しい設定が作成されますが、クライアント側の SSL パラメータは削除されます。既存の SSL 設定を手動で再設定してください。詳細については、「SSL の設定」を参照してください。移行を実行する前に、現在の SSL 設定を記録しておいてください。
- ログが `<server root>/idar-<host>/logs/fwd.log` に保存されるように設定されている場合、移行後も同じ場所に保存されます。保存場所を変更するには、移行前か移行後に現在の設定を変更してください。

Directory Proxy Server 5.2 への移行

1. Configuration Directory Server 上で、ほかのアプリケーションが、Directory Access Router および Directory Proxy Server の設定を変更していないことを確認してください。Directory Proxy Server および Directory Access Router のコンソールを両方とも終了します。移行中は、設定を変更しないでください。
2. 古いインストールとは別のサーバールートに Directory Proxy Server 5.2 をインストールします。

注 この時点で Directory Access Router 5.0 コンソールは機能しなくなります。

---

3. 移行ユーティリティは、Directory Proxy Server ディレクトリツリー内にあります。次のコマンドを入力して、移行ユーティリティ `migratefromidar50` を実行します。

```
<install root>/bin/dps_utilities/migratefromidar50 -b <Backup file name> -o \
<Directory Access Router 5.0 サーバーインスタンスの tailor.txt へのパス> \
-n <Directory Proxy Server 5.0 サーバーインスタンスの tailor.txt への \
パス >
```

`migratefromidar50` の引数およびその意味について次に示します。

引数	機能
`-b`	バックアップファイル名を入力。`ou=dar-config`、`o=NetscapeRoot` 分岐のバックアップは、`-n` フラグで指定する新しい起動設定ファイルに表示されるすべての設定ディレクトリ用に作成される。バックアップがどのディレクトリに属するかを示す数字のサフィックス (0..*n*) がファイル名に追加される。起動設定ファイルの最初のエントリには、サフィックス 0 が追加される
`-o`	Directory Access Router 5.0 サーバーインスタンスの `tailor.txt` ファイルへのパスを指定
`-n`	Directory Proxy Server 5.2 サーバーインスタンスの `tailor.txt` ファイルへのパスを指定

これで、設定は移行されました。

4. 移行に失敗した場合は、`ou=dar-config`、`o=NetscapeRoot` サブツリーを削除してから、`-b` <*Backup file name*> 引数で保存されたエントリに置き換えます。この時点で、Directory Access Router 5.0 コンソールは完全に機能しません。

   次の状況である場合、移行に失敗します。

- 移行出力の最終行が `all done` でない
- コンソールが設定を読み込めない
- 移行後、および設定関連のすべての SSL を手動で移行した後に、サーバーを起動できない

5. `ldapadd` (LDIF 形式) を使用して、あるいは Directory Server コンソールを介してバックアップを復元します。
6. SSL が旧バージョンの Directory Access Router インスタンスに設定されていない場合は、新しい Directory Proxy Server を再起動します。SSL が設定されている場合は、「SSL の設定」に進んでください。

SSL の設定

SSL が旧バージョンの Directory Access Router に設定されている場合は、この方法で設定を移行してください。

既存の Directory Access Router 5.0 を Directory Proxy Server 5.2 ソフトウェアに認識させるには、CA (Certificate Authority) に SSL 証明書と鍵を要求して、設定します。あるいは、既存の SSL 証明書と鍵を再設定します。

1. Sun ONE コンソールを使用して SSL 証明書データベースを作成します。

   詳細は、『Sun ONE Directory Proxy Server Administrator's Guide』の「Configuring System Parameters」を参照してください。

注 既存の SSL 証明書と鍵を変換する場合は手順 2 に進んでください。新しい SSL 証明書と鍵を要求する場合は手順 4 に進んでください。

---

2. 作成した証明書データベースに古い証明書と非公開鍵のペアを挿入するには、証明書と鍵のペアを PKCS12 形式に変換する必要があります。OpenSSL は PEM 証明書と鍵のペアを PKCS12 形式に変換するユーティリティを提供します。

注 `openssl` ユーティリティを使用した変換は、お勧めしません。また、Sun Microsystems, Inc. ではこの変換方法をサポートしていません。可能であれば、新しい証明書と非公開鍵のペアを CA に要求してください。最新の情報については、『Directory Proxy Server リリースノート』を参照してください。

   OpenSSL は次の Web サイトにあります。

   `http://www.openssl.org`

   OpenSSL のマニュアルは次の Web サイトにあります。

   `http://www.openssl.org/docs/apps/openssl.html`

3. 証明書と鍵のペアを PKCS12 形式に変換したら、`pk12util` ソフトウェアを使用して証明書データベースにそれらのペアを挿入します。`pk12util` は次の場所から入手できます。

   <serverroot>`/shared/bin`

   `pk12util` のマニュアルは次の Web サイトにあります。

   `www.mozilla.org/projects/security/pki/nss/tools/pk12util.html`

4. 新しい SSL 証明書と鍵を要求する場合、Sun ONE Directory Proxy Server コンソールを使用して CA に送信する証明書要求を作成します。

   詳細は、『Sun ONE Directory Proxy Server Administrator's Guide』の「Configuring Directory Proxy Server for TLS/SSL-enabled Communication」を参照してください。

5. SSL 証明書と鍵が Directory Proxy Server 5.2 で使用できるようになったら、必要に応じてシステムオブジェクトを設定します。

   詳細は、『Sun ONE Directory Proxy Server Administrator's Guide』の「Configuring System Parameters」を参照してください。

6. 適切な SSL 操作が停止していることを確認してから、Directory Proxy Server ソフトウェアを再起動します。

   次のエントリのログファイルを確認します。

```
560212 Now listening on port <port number> and socket <socket
nember> for secured connections.
```

7. Directory Proxy Server 5.2 を新しくインストールする前に、SSL が正しく移行されていることを確認します。次のことを確認します。

- Directory Proxy Server の SSL ポートが設定されている
- クライアントから Directory Proxy Server への SSL 接続を確立できる
- 可能な場合は、Directory Proxy Server からバックエンドサーバーへの SSL 接続を確立できる

索引

D

Directory Proxy Server のアンインストール , 44
Windows NT のアプリケーションの追加と削除ユーティリティの使用 , 44
コマンド行から , 42
Directory Proxy Server、定義 , 14

I

idsktune, 23, 29

N

Netscape root ディレクトリツリー , 16
NSHOME, 15

S

Sun One コンソール , 14

い

移行に関する問題 , 47
インストール
設定の決定 , 14
プロセスの概要 , 17
新規インストール , 17
レジストリ , 39
インストールディレクトリ、デフォルト , 15

か

管理サーバー , 14

さ

サーバールート , 15
サイレントインストール、使用 , 35
サイレントインストール、定義 , 17

し

システムモジュールの要件
Solaris, 20

せ

設定ディレクトリ管理者 , 16

設定ディレクトリ、定義 , 16
設定の決定 , 14
セットアッププログラム、コマンド行インタフェース を利用 , 36

に

認証エンティティ , 16

は

パッチ
必要 , 23, 29

ひ

標準インストール、定義 , 17
標準インストール、使用
Windows の場合 , 32

ふ

プラットフォームの要件 , 19

ほ

ポート番号
選択 , 14